

都市再生整備計画 事後評価シート  
刈谷駅南地区

平成26年3月

愛知県刈谷市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	刈谷市	地区名	刈谷駅南地区			面積	94.3ha
交付期間	平成21年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	4,483百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間形成施設(市道1路線)、高次都市施設(地域交流センター、子育て世代活動支援センター)						
		提案事業	地域創造支援事業(保健センター、中央生涯学習センター)						
	新たに追加した事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	高質空間形成施設(市道1路線)	電線類地中化が管理者との調整のなかで困難となり、コミュニティ道路としてではなく視覚的な歩車分離を目指すこととしたため「道路」に変更した。		事業の変更に伴い、指標4の数値目標を変更した。			
提案事業	-	-		-					
交付期間の変更	当初	平成21年度～平成23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	道路、公園、広場については、交付期間の変更に伴い事業の追加、事業量の変更があったため、指標4の目標変更、指標5の新設を行った。					
	変更	平成21年度～平成25年度		-					

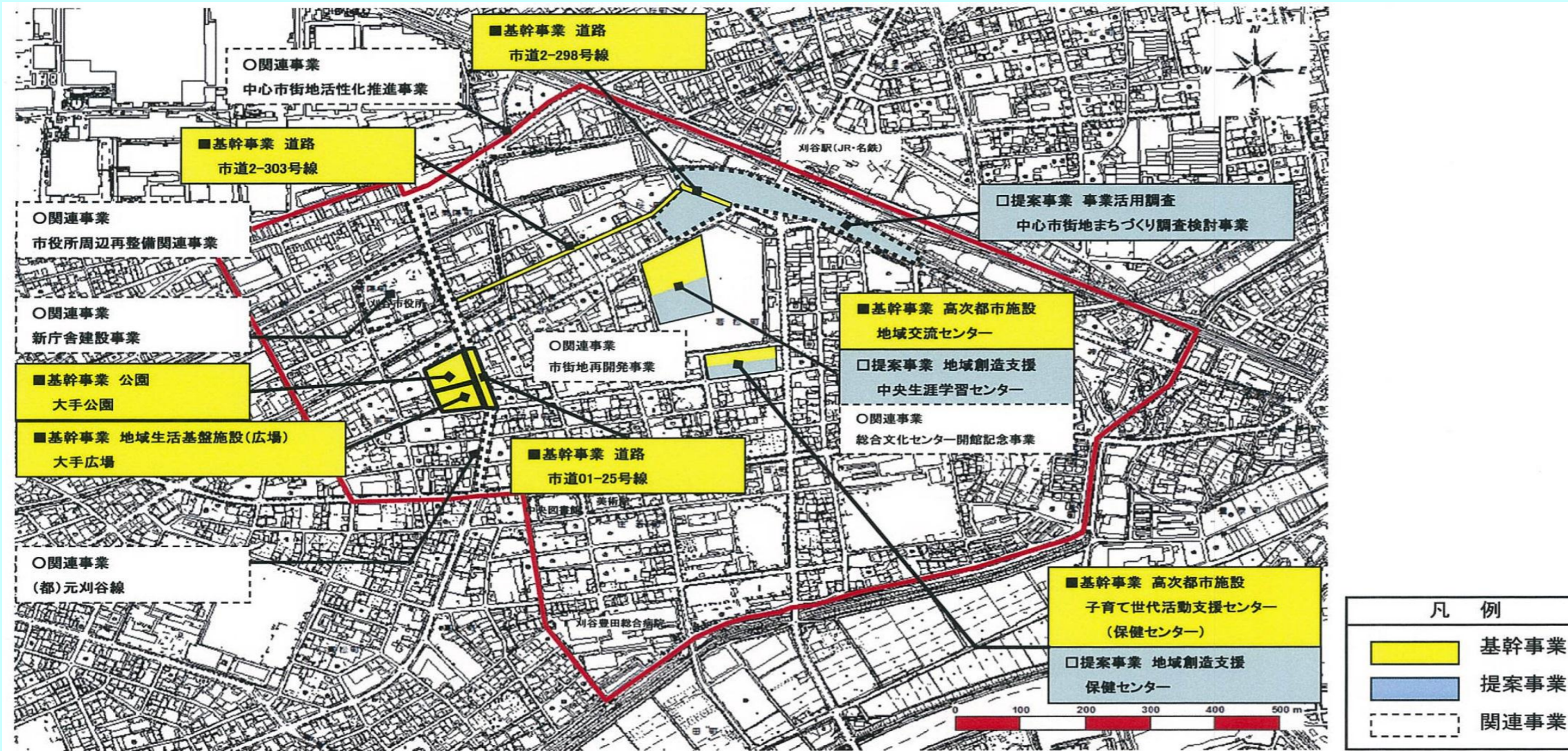
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	保健センター年間利用者数	人	46,535	H19	58,657	H25		155,029	○	あり なし	子育て世代活動支援センターと保健センターの整備が一体的にされたことにより相乗効果を生み、効果発現に寄与した。また、隣接する地域交流センター、中央生涯学習センター、商業施設等の都市機能集積の高まり、交通結節点としての利便性、安全性の高まりが、間接的に効果発現に寄与した。	平成26年4月
指標2	市民ホール年間利用者数	人	90,655	H19	160,264	H25		281,952	○	あり なし	地域交流センター整備とともに、開館記念事業などソフト事業が相乗効果を生み、効果発現に寄与した。また、中央生涯学習センター、子育て世代活動支援センター、保健センター、商業施設等の都市機能集積の高まり、交通結節点としての利便性、安全性の高まりが間接的に効果発現に寄与した。	平成26年4月
指標3	中央生涯学習センター年間利用者数	人	147,478	H19	379,340	H25		320,848	△	あり なし	数値目標達成に至っていないものの、地域交流センター整備との相乗効果を生み、市民の大幅な利用促進につながった。質の面からみても、施設の規模及び機能の拡大(陶芸、音楽制作、PC研修等)が図られたことで、市民の文化活動の多様化に的確に対応できる柔軟性が向上している。これらのことから、市民の多様な余暇活動による自己実現の場の充実や、共通の趣味を持った市民が集うことによる中心市街地のにぎわい創出の効果は顕著に現れていると判断できる。	平成26年4月
指標4	歩行空間快適度	%	39.0	H20	74.6	H25		75.9	○	あり なし	道路整備(歩車分離、透水性舗装、誘導ブロック、無電柱化)により、道路の安全性、快適性、景観向上が図られ、効果発現に寄与した。また関連事業(市街地再開発事業)は、歩行空間の安全、利便性向上や景観形成による快適性向上に間接的に大きな貢献を果たしている。	-

	指標5	緑の豊かさ	%	92.6	H23	96.9	H25		96.9	○	あり なし	大手公園、大手広場の整備により、都市再生整備計画区域内のオープンスペースがより充実し、効果発現に寄与した。また道路整備や関連事業(市街地再開発事業)は、緑被率や景観形成による快適性向上に間接的に貢献を果たしている。	-
3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値 基準年度		目標値 目標年度		数値(H24) モニタリング		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の数値指標1	中央生涯学習センターにおける年間の市民向け講座受講者数	人	0	H19	/	/	2,014	/	/	/	市及び指定管理者主催の講座は、従前施設では開催されておらず、当施設の整備を契機に、多くの各種講座が開催され、多くの受講数が見られることから、生涯学習機会が明らかに充実していることがわかる。また、募集定員に対する応募率(138%)、参加率(79%)も高く、市民の関心も高まっていることがわかる。	平成26年4月
	その他の数値指標2	中央生涯学習センターにおける年間の市民向け講座開催数	回	0	H19			416					
4) 定性的な効果発現状況	(指標3について)施設の利用記録上は目標値の達成に至っていないものの、情報コーナーやコミュニティサロン等パブリックスペースの利用など、統計に反映されていない利用実態もみられる。快適性の高い施設が刈谷駅という交通結節点に近い位置に集約整備され、商業施設、保健センター等との一体性が高まったことで、施設への立ち寄りが促進されていると評価できる。												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	駅前商店街を中心として、地区住民、諸団体との連携による「歩いて楽しいグルメ街のあるまち」の賑わい創出		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●					

## 様式2-2 地区の概要

### 刈谷駅南地区(愛知県刈谷市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
<b>大目標:心と体の健康を育む、賑わいのあるまちづくり</b> 目標①市民の健康と子供たちの健やかな成長を支えるまちづくり 目標②生涯学習や文化活動などの余暇活動の推進 目標③市役所などの公共施設へのアクセス改善	保健センター年間利用者数	単位:人	46,535 H19	58,657 H25	155,029 H25
	市民ホール年間利用者数	単位:人	90,655 H19	160,264 H25	281,952 H25
	中央生涯学習センター年間利用者数	単位:人	147,478 H19	379,340 H25	320,848 H25
	歩行空間快適度	単位:%	39.0 H20	74.6 H25	75.9 H25
	緑の豊かさ	単位:%	92.6 H23	96.9 H25	96.9 H25



**まちの課題の変化**

- ・保健センター、子育て世代活動支援センターの整備により健康意識の高まりや医療制度改革に対応できる施設機能、子供たちの健やかな成長を支えるための子育て支援事業ならびに保健、健康づくり事業充実のための施設機能が高まり、課題の解決が図られた。
- ・地域交流センター、中央生涯学習センターの整備により、生涯学習や文化活動などの余暇活動を支える施設機能が高まり、課題の解決が図られた。
- ・市道2-298号線をはじめとする道路整備、大手公園、大手広場の整備、市役所周辺再整備関連事業により、公共施設周辺のアクセス改善が図られ、課題の解決が図られた。
- ・刈谷駅周辺における都市基盤整備や高次都市機能の充実が進展したが、この活力を本市の中心市街地全体へ波及させるために、刈谷市駅周辺地区との一体性確保が課題となった。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

中心市街地全体としてのまちづくりの展開を図るため、刈谷市駅周辺地区における魅力ある市街地形成に取り組んでいくこととする。

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		指標5:-(設定なし)	指標5:「緑の豊かさ」を新設	大手公園、大手広場の整備事業を都市再生整備計画に追加したため、区内における緑地空間の充足度を評価する指標として指標5を新設した。
C. 目標値	●		指標4「歩行空間快適度」H23年度63.4%	指標4「歩行空間快適度」H25年度74.6%に変更 指標5:「緑の豊かさ」H25年度96.9%を新設	指標4については、都市再生整備計画における道路整備計画の変更に伴い目標値を変更した。 指標5については、指標新設に伴い新たに目標を定めた。
D. その他( )					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込
道路	市道2-298号線	-	-	90	L=110m	事業の追加	対象となる路線と事業量の変更に伴い、指標4の数値目標を変更した。		●
	市道2-303号線	-	-	45	L=410m	整備延長を変更のうえ、高質空間形成施設から事業区分を変更	同上		●
	市道01-25号線	-	-	95	L=147m	事業の追加	同上		●
公園	大手公園	-	-	28	A=3,200㎡	事業の追加	事業の追加に伴い、緑地整備水準を評価する指標5を新設した。		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	大手広場	-	-	27	A=3,100㎡	事業の追加	事業の追加に伴い、緑地整備水準を評価する指標5を新設した。		●
高質空間形成施設	市道2-303号線	20	L=210m	-	-	整備延長を変更のうえ、道路へ事業区分を変更	道路に事業区分を変更のうえ、対象となる路線と事業量の変更に伴い、指標4の数値目標を変更した。	-	
高次都市施設	地域交流センター	3,000	延床11,287.64㎡	2,985	延床11,287.64㎡	事業費の精査による変更	事業費の変更であり、評価指標の数値目標に影響はない。	●	
	子育て世代活動支援センター(保健センター)	144	延床600㎡	120	延床600㎡	事業費の精査による変更	同上	●	

既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込
地域創造支援事業	保健センター	1,101	延床3,600㎡	967	延床3,600㎡	事業費の精査による変更	事業費の変更であり、評価指標の数値目標に影響はない。	●	
	中央生涯学習センター	124	延床5,620.86㎡	124	延床5,620.86㎡	変更なし		●	





添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
				基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	数値	評価	達成度	あり	なし		
指標1	保健センター年間利用者数	人	施設管理者が実測する年間利用記録をもとに、平成23、24年度の利用者数を計測し、これをもとに平成25年度年間利用者数の評価値の見込み値とする。	-	-	46,535	H19	58,657	H25	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み ●	155,029	事後評価 ○			
指標2	市民ホール年間利用者数	人	施設管理者が実測する月別の利用記録をもとに、平成25年4～6月の利用者数を計測し、前年度4～6月利用者計と比較し、補正係数を求めたうえで、平成25年7月～平成26年3月の利用者数を推計し、これをもって平成25年度年間利用者数の評価値の見込み値とする。	-	-	90,655	H19	160,264	H25	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み ●	281,952	事後評価 ○			
指標3	中央生涯学習センター年間利用者数	人	施設管理者が実測する月別の利用記録をもとに、平成25年4～6月の利用者数を計測し、前年度4～6月利用者計と比較し、補正係数を求めたうえで、平成25年7月～平成26年3月の利用者数を推計し、これをもって平成25年度年間利用者数の評価値の見込み値とする。	-	-	147,478	H19	379,340	H25	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み ●	320,848	事後評価 △		●	
指標4	歩行空間快適度	%	バリアフリー基本構想路線に位置づけられている市道について、平成25年7月時点における4項目の快適度指標に対する整備率を算出し、これをもって平成25年度の評価値とする。	-	-	39.0	H20	74.6	H25	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ● 見込み	75.9	事後評価 ○			
指標5	緑の豊かさ	%	都市再生整備計画区域内の緑地について、平成25年7月時点における整備面積を計測し、整備計画総面積に対する整備率を算出、これをもって平成25年度の評価値とする。	-	-	92.6	H23	96.9	H25	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ● 見込み	96.9	事後評価 ○			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	○保健センターと子育て世代活動支援センターの一体的整備による相乗効果が発揮され、使い勝手も改善されたことから利用の促進が図られたと評価できる。H23、24年度実績ですでに目標を大幅に上回る利用者数があり、本年度においても同程度の利用が見込まれることから、達成見込みがあるものと判断できる。	
指標2	○総合文化センターの開館により市民の文化活動が促進され、利用者が増加したと評価できる。H24年4月は「宇宙機はやぶさ」の展示により小ホール利用者が顕著に増加しており、特異値とみなされるが、この影響を差し引いてもH24年度時点で目標を大きく上回っており、本年度においても同程度の利用が見込まれることから、達成見込みがあるものと判断できる。	
指標3	△旧施設のH15～19年度の年間利用者数は123～148千人前後で推移しているのに対し、新施設整備後はH22年度277千人、23年度300千人、24年度319千人と大幅に増えている。 また、市民会館から中央生涯学習センターに施設が更新され、施設の規模及び機能の拡大(陶芸、音楽制作、PC研修等)が図られたことで、市民の文化活動の多様化に的確に対応できる柔軟性が向上している。 このことから、目標値には達しないものの、市民の多様な余暇活動による自己実現の場の充実や、共通の趣味を持った市民が集うことによる中心市街地のにぎわい創出の効果は顕著に現れていると判断できる。さらに今後、当地区において諸施設の相乗効果によって中心市街地の魅力度が一層高まり、来街者と居住人口の増加につながることを期待できる。	指標計測に使用したデータは、個別施設の利用者数の計であるが、これには情報コーナー、コミュニティサロン等のオープンスペース(共有スペース)分の利用者数が含まれていないため、利用者数が低めに計測されている。
指標4	○市道2-298号線、2-303号線、01-25号線(3.4.209元刈谷線)、2-315号線(再開発事業)の4路線において、歩車道の分離、透水性舗装の整備、誘導ブロックの敷設、無電柱化の整備が進捗したことが要因となり、目標が達成された。	
指標5	○大手公園(0.32ha)及び大手広場(0.31ha)の整備が進捗したことが要因となり、目標が達成された。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 (ア)	従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度	基準年度					
その他の数値指標1	人	市生涯学習課及び指定管理者の事業報告より「市民講座」「アイリスカルチャークラブ(生涯学習自主講座)」「刈谷まなびの広場」の受講者数を求める。※( )内は延べ参加人数		0	H19	モニタリング			2,014 (6,290)	指標3「中央生涯学習センター年間利用者数」は目標に達していないが、市民の多種多様な余暇活動による自己実現や、共通の趣味を持った市民が集う場の充実が図られたことを示す指標として本指標を取り上げる。 市及び指定管理者主催の講座は、従前施設では開催されておらず、当施設の整備を契機に、多くの各種講座が開催され、多くの受講数がみられることから、生涯学習機会が明らかに充実していることがわかる。 また、募集定員に対する応募率(138%)、参加率(79%)も高く、市民の関心も高まっていることがわかる。
						事後評価(H24)	確定	○		
その他の数値指標2	回	市生涯学習課及び指定管理者の事業報告より「市民講座」「アイリスカルチャークラブ(生涯学習自主講座)」「刈谷まなびの広場」の開催回数を求める。		0	H19	モニタリング			416	
						事後評価(H24)	確定	○		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(指標3について)施設の利用記録上は目標値の達成に至っていないものの、情報コーナーやコミュニティサロン等パブリックスペースの利用など、統計に反映されていない利用実態もみられる。快適性の高い施設が刈谷駅という交通結節点に近い位置に集約整備され、商業施設、保健センター等との一体性が高まったことで、施設への立ち寄りが促進されていると評価できる。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
駅前商店街を中心として、地区住民、諸団体との連携による「歩いて楽しいグルメ街のあるまち」の賑わい創出	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )	【空き店舗活用によるコミュニティ施設「スペースAqua」の運営】 総合文化センターと連携した事業の実施を検討 【都心交流エリアワークショップ】 刈谷駅南口北口周辺を対象範囲とし、月1回実施 【カリアンナイト・アクアモールイルミネーション等イベントの開催】 刈谷駅南口北口周辺の商店による賑わいを創出するイベントを開催 【情報誌「あくあ」の制作】 主に中心市街地を対象とする情報誌を年4回発行 【花と蝶のパトロール】 刈谷駅南口北口周辺の清掃及び防犯パトロールを月1回実施	■刈谷市都心交流エリア活性化協議会 商店街、商工会議所、企業、地区、NPO、市などにより構成。カリアンナイトやパトロールなどの活動報告、刈谷駅南口と北口の連携による賑わいの創出や安心・安全なまちづくりについて話し合うワークショップを実施。 ■特定非営利活動法人まちづくりかりや 事業の増加に伴い、商店街振興組合に代わってカリアンナイトやイルミネーションの運営、情報誌あくあの制作を担う組織としてH25年に設立された。スペースAquaの企画・運営では総合文化センター等とタイアップした展示や講座を検討するなど、中心市街地を中心に活動を行う。 ■その他(カリアンナイト実行委員会、情報誌「あくあ」制作委員会、刈谷駅周辺連絡協議会等)	

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価 庁内評価検討会	庁内関係各課課長補佐兼係長・係長級職員(企画政策課、財務課、健康課、子育て支援課、土木管理課、道路建設課、まちづくり推進課、公園緑地課、生涯学習課、文化振興課)	第1回:平成25年7月3日 第2回:平成25年10月3日 第3回:平成26年1月8日	まちづくり推進課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標4		指標5		
指標名		保健センター年間利用者数		市民ホール年間利用者数		歩行空間快適度		緑の豊かさ		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	市道2-298号線	○	基幹事業である子育て世代活動支援センターと、提案事業である保健センターの整備が一体的にされたことにより相乗効果を生み、市民の利用促進につながったと考えられる。 また、隣接する市街地再開発事業により地域交流センター、中央生涯学習センター、商業施設等の都市機能集積が高まると同時に、交通結節点としての利便性、安全性が高まったことで、間接的に効果が発現しているものと考えられる。	○	基幹事業である地域交流センター整備とともに、開館記念事業などソフト事業が相乗効果を生み、市民の利用促進につながったと考えられる。 また、中央生涯学習センター、子育て世代活動支援センター、保健センター、商業施設等の都市機能集積が高まると同時に、市街地再開発事業により交通結節点としての利便性、安全性が高まったことで、間接的に効果が発現しているものと考えられる。	◎	基幹事業3路線、関連事業(市街地再開発)の1路線に係る道路整備(歩車分離、透水性舗装、誘導ブロック、無電柱化)により、道路の安全性、快適性、景観向上が図られ、歩行空間の質的改善が図られた。 また、指標数値の改善に直接貢献していないものの、市街地再開発事業は、歩行空間の安全、利便性向上や景観形成による快適性向上に間接的に大きな貢献を果たしている。	-	基幹事業である大手公園、大手広場の整備により、都市再生整備計画区域内のオープンスペースがより充実し、緑の豊かさ向上が図られた。 また、指標数値の改善に直接貢献していないものの、道路整備や市街地再開発事業は、緑被率や景観形成による快適性向上に間接的に貢献を果たしている。	
	市道2-303号線	○		○		◎		-		
	市道01-25号線	○		○		◎		-		
	大手公園	-		-		○		◎		-
	大手広場	-		-		○		◎		-
	地域交流センター	○		◎		-		-		-
	子育て世代活動支援センター	◎		○		-		-		-
提案事業	地域創造支援事業(保健センター)	◎	○	-	-	-	-			
	地域創造支援事業(中央生涯学習センター)	○	○	-	-	-	-			
	中心市街地まちづくり調査検討事業	○	○	○	○	○	-			
関連事業	新庁舎建設事業	○	○	○	○	○	-			
	道路(街路)	○	○	○	◎	-	-			
	中心市街地活性化推進事業	○	○	○	○	○	○			
	市街地再開発事業	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
	総合文化センター開館記念事業	○	◎	-	-	-	-			
	市役所周辺再整備関連事業	○	○	○	○	-	-			

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標4	指標5
	H25年度の大手公園、大手広場の整備完了に伴い、当施設を含む公益的施設、行政施設、商業施設、公園緑地、駅等が安全性、快適性の高い歩行者ネットワークで結ばれることから、当施設のさらなる利用促進により、より暮らしやすく魅力ある中心市街地づくりを進める。	H25年度の大手公園、大手広場の整備完了に伴い、当施設を含む公益的施設、行政施設、商業施設、公園緑地、駅等が安全性、快適性の高い歩行者ネットワークで結ばれることから、当施設のさらなる利用促進により、より暮らしやすく魅力ある中心市街地づくりを進める。	未整備区間の整備をさらに進め、歩行者にとって安全で快適なネットワークを形成する。	中心市街地活性化とも連携しながら、駅前広場の植樹などの住民活動推進など、緑の豊かさのさらなる向上に努める。



#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価 庁内評価検討会	庁内関係各課課長補佐兼係長・係長級職員(企画政策課、財務課、健康課、子育て支援課、土木管理課、道路建設課、まちづくり推進課、公園緑地課、生涯学習課、文化振興課)	第1回:平成25年7月3日 第2回:平成25年10月3日 第3回:平成26年1月8日	まちづくり推進課(都市再生整備計画事業担当課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
健康意識の高まりや医療制度改革に対応できる施設機能や、子供たちの健やかな成長を支えるための子育て支援事業や保健、健康づくり事業充実のための施設機能が不足。	保健センター、子育て世代活動支援センターの整備により、施設の規模と機能の面で課題に対応しうる施設が整備された。	なし	刈谷駅周辺における都市基盤整備や高次都市機能の充実が進展したが、この活力を本市の中心市街地全体へ波及させるために、刈谷市駅周辺地区との一体性確保が課題となった。
生涯学習や文化活動などの余暇活動を支える施設機能が不足。	地域交流センター、中央生涯学習センター、大手公園、大手広場の整備により、施設の規模と機能の面で課題に対応しうる施設が整備された。	なし	
市役所などの公共施設周辺のアクセス改善。	市道2-298号線をはじめとする道路整備、市役所周辺再整備関連事業により、公共施設周辺のアクセス改善に寄与する都市基盤施設の整備が進展した。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	保健センター、子育て世代活動支援センター、地域交流センター、中央生涯学習センター等の施設の維持と、道路、公園、広場等公共施設のアクセスに資する都市基盤施設の維持	多様な主体が参画し、市民ニーズに合致する各種講座やイベントの持続的開催と、それを支える組織、体制の整備、また中心市街地の賑わい増進に資するコンテンツの拡大など、ソフトウェア面での取り組みを進める。	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未達成の目標を達成するための改善策</li> <li>・未解決の課題を解消するための改善策</li> <li>・新たに発生した課題に対する改善策</li> </ul>	刈谷市駅周辺地区への都市活力の波及など、中心市街地全体としてのまちづくりの展開	刈谷市駅周辺地区における魅力ある市街地形成	

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
-	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見



添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	保健センター年間利用者数	人	46,535	H19	58,657	H25	確定	見込み ○	155,029	○	あり なし	平成26年4月予定(平成26年3月までの利用者数が明らかになった時点)	施設利用記録により、平成25年4月から平成26年3月までの利用者数実績値を計測し、平成25年度利用者数の確定値とする。	
指標2	市民ホール年間利用者数	人	90,655	H19	160,264	H25	確定	見込み ○	281,952	○	あり なし	平成26年4月予定(平成26年3月までの利用者数が明らかになった時点)	年度事業報告書により、平成25年4月から平成26年3月までの利用者数実績値を計測し、平成25年度利用者数の確定値とする。	
指標3	中央生涯学習センター年間利用者数	人	147,478	H19	379,340	H25	確定	見込み ○	320,848	△	あり なし ○	平成26年4月予定(平成26年3月までの利用者数が明らかになった時点)	利用報告書により、平成25年4月から平成26年3月までの利用者数実績値を計測し、平成25年度利用者数の確定値とする。	
指標4							確定	見込み			あり なし			
指標5							確定	見込み			あり なし			
その他の数値指標1							確定	見込み						
その他の数値指標2							確定	見込み						
その他の数値指標3							確定	見込み						

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		成果指標に用いる統計資料を選ぶにあたっては、目標設定時から事後評価、フォローアップ時点まで通して時系列で入手でき、かつ事業効果を正確に表せるものを選択することに留意する必要がある。
	うまく いかなかった点	中央生涯学習センターの評価に用いた利用者数には、共有スペースの利用者数が含まれておらず、事業効果が必ずしも正確に把握できていなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

### 添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

当地区における事業の効果を本市の中心市街地全体へ波及させるために、今後刈谷市駅周辺地区との一体性確保を図る際には、当地区で得られた経験を計画作成や事後評価に活用していく。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成26年2月3日～2月17日	平成26年2月3日～2月17日	担当課を窓口とし、郵送、持参、ファクス、Eメールで意見を受付	
広報掲載・回覧・個別配布	市民だよりにまちづくり推進課の窓口および市のホームページで原案を公表する旨を掲載	平成26年2月1日発行 かりや市民だより 2/1号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	まちづくり推進課の窓口で閲覧	平成26年2月3日～2月17日	平成26年2月3日～2月17日		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	瀬口 哲夫 名古屋市立大学名誉教授 (刈谷市都市計画審議会委員長 兼任)	平成26年3月5日	まちづくり推進課	刈谷市都市再生整備計画評価委員会設置要領	なし
その他の委員	刈谷商工会議所 会頭 (刈谷市都市計画審議会委員 兼任) 刈谷市婦人会連絡協議会 本部副会長 (刈谷市都市計画審議会委員 兼任)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	特になし
	成果の評価	特になし
	実施過程の評価	「持続的なまちづくり体制の構築状況」について、実態に合わせ記述の見直しが必要との指摘があった。
	効果発現要因の整理	特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当である旨、確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特になし
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当である旨、確認された。
その他	特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。